

■ご挨拶

風力発電の可能性と企業の役割



日本風力発電協会 理事 **安 茂**
ジャパン・リニューアブル・エナジー(株) 会長

はじめに

今年度も引き続き理事を拝命いたしました、ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社（JRE）の安（やす）でございます。

自己紹介も7回目になりますし、国内における風力発電の導入の話は他の理事の方々からご意見をいただけたと思いますので、少し異なる視点から述べさせていただきます。

企業の寿命

弊社はお陰様で今年の8月で創業5年を迎えました。あつと言う間だったという思いと、再エネの事、業界の事、会社の事を色々考え動いてきたなという感じの5年間です。ひとつだけはっきりしているのは、弊社は最早スタートアップ企業では無く、その次の段階に入ったという点です。社員数も約140人になり、それだけ企業として社員やその家族に対する責任も大きくなってきてだけでなく、社会に対する使命も大きくなってきていると言えます。

一般に企業の寿命は約30年と言われていています。企業が30年経つと消滅するという意味では無く、この場合の「寿命」は「繁栄を謳歌できる期間」を意味するそうです。JREは自分育ててきた会社ですから子供のようなもので、出来るだけ長く、出来れば未来永劫繁栄して欲しいと思っています。しかし企業に社会的な存在意義がないとその繁栄は続きません。

再生可能エネルギーには、温室効果ガスの削減、エネルギー自給率の向上など多くの社会的な意義があります。ただし、私どもが日々感じるのは、価値の無かった土地を有効利用することにより資産価値が向上し、賃料が入った、固定資産税収入が増えた、あるいは地元の企業に仕事が増えた、雇用が増えたと喜ぶ地元の方々の笑顔です。地元に着した日々の業務を誇りを持って行っていけば、自ずから企業の繁栄が継続し、社会に貢献していけると信じています。

エネルギーの転換

欧州の主要なエネルギー企業である DONG エナジーは、今年2月に全ての石炭専焼火力発電所を廃止し、後継の発電所はバイオマス発電とし、一連の燃料転換を2023年までに完了させることを発表、5月には石油開発部門の売却を発表しました。DONGは「デニッシュ・オイル・アンド・ナチュラガス」の略称で、1972年の設立です。創業45年にして、社名に名前の残る祖業にあたる石油を止め、創業51年目に石炭火力発電所を全廃するという大胆な決断です。このような前向きな経営判断を通じて、世界で最大の洋上風力発電事業会社の地位を保っています。DONG エナジーと弊社は兄弟会社という資本関係に有りますが、弊社も DONG エナジーのように時代の先端を切り開いていく企業でありたいと願っています。

最近思う事

FIT が導入される以前は、再エネの電気にどうやって不可価値を付けようかと、必死に知恵を絞った記憶が有ります。FIT 導入後は、ただ単に売電するのが事業性としては一番良いということになり、知恵を出す努力が薄れてきてしまっているような気がしてなりません。

発電事業は規模が大きいほど経済効率が良いので、スケールメリットを追い求める傾向になりがちです。ただし、最近の分散型電源の普及、IoT、ブロックチェーン、シェアリングエコノミーなど新しい概念、技術の登場により、既存の電力システムが変わり始めています。この変化の時代こそ経験と知恵の出どころ、勝負どころです。進むべき姿を的確に見据えて、大きく成長していきたいと思っています。

終わりに

末筆になりますが、本協会の発展のため、微力ながら引き続き尽力してまいりますので、よろしくお祈りいたします。